



【新刊書】

シリーズ

文と発話 全3巻 串田秀也・定延利之・伝康晴編 各3360円

1. 活動としての文と発話

《前書きより》

「…シリーズ第一巻となる本巻では、「文は記号である」という見方に代えて「文は活動である」という見方を提出することで、何が得られるかを考えてみることにした。「文という記号それじたいよりも、具体的な文脈で文を使うという活動が重要だ」と言うのではない。文それじたいを記号ではなく活動と考えたときにどんな現象が視野に入ってくるのか。また、そこで言う「活動」は誰が、どのようにおこなうものなのか。これらの問題を扱った論文を本巻は収録している。」

《目次》

- 録音・録画データの共通転記記号
- 「文」内におけるインターアクション：日本語助詞の相互行為上の役割をめぐって 林誠
- 参加の道具としての文：オーバーラップ発話の再生と継続 串田秀也
- 複数の発話順番にまたがる文の構築：プラクティスとしての文法Ⅱ 西阪仰
- 自然談話に見られる逸脱的な文の構築：試行的提示のための形式「…と言うか」「…ですか」など 北野浩章
- 修復をとらえなおす：参照枠の修復における発話とジェスチャーの個体内・個体間相互作用 細馬宏通
- 情報処理、相互作用、談話構造からみた倒置と非言語行動との関係 ポリー・ザトラウスキー
- 非流ちょう性への言語学的アプローチ：発音の延伸、とぎれを中心に 定延利之・中川明子
- 驚きを伝えるということ：感動詞「あっ」と「わっ」の分析を通して 富樫純一
- 項の「文的」解釈と「発話的」解釈：呼びかけ詞の対照言語学的考察 林博司・水口志乃扶・小川曉夫

以後続刊！

2. 「単位」としての文と発話 2006年12月刊行予定

3. 時間の中の文と発話 2006年9月刊行予定



講座 社会言語科学 全6巻 各3360円

1. 異文化とコミュニケーション 井出祥子・平賀正子編

2. メディア 橋元良明編

5. 社会・行動システム 片桐恭弘・片岡邦好編

以後続刊！

3. 関係とコミュニケーション 大坊郁夫・永瀬治郎編 2006年9月刊行予定

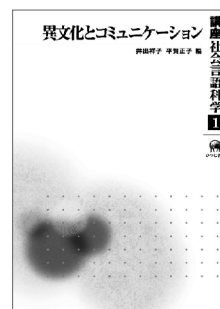
4. 教育 西原鈴子・西郡仁朗編 2006年12月刊行予定

6. 方法 伝康晴・田中ゆかり編 2006年3月刊行予定

メディアとことば 三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編 各2520円

メディアとことば 1 特集：「マス」メディアのディスコース

メディアとことば 2 特集：組み込まれるオーディエンス



ひつじ研究叢書（言語編）

— 2005年度 新村出賞受賞 —

40. 複合動詞・派生動詞の意味と統語

— モジュール形態論から見た日英語の動詞形成 由本陽子著 7140円